

1. 作業部会 設置趣旨

吹田市地域医療推進懇談会の議論においても、延命治療を望まない意思表示している方の救急搬送の問題も含め、人生の最終段階における医療・ケアにおいて十分に本人の意思が尊重されることの重要性についての意見が出されている。

そうした意見を踏まえて、人生の最終段階における医療やケアに関する本人の意思決定や支援についての現状把握と課題の整理を行い、市民の意思を尊重したアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の推進方法について議論のために設置。

2. 作業部会構成員

委員：吹田市医師会(1名)、在宅医(1名)

市内病院(医師1名、看護師1名) (吹田徳洲会病院、済生会吹田病院)

吹田市介護保険事業者連絡会訪問看護部会(2名)

吹田市介護保険事業者連絡会居宅介護支援部会(1名)、大阪大学(1名)

オブザーバー：吹田市消防本部(1名)

3. 作業部会 開催日程

第1回 現状及び課題の抽出、市民への情報提供や啓発のあり方について(R1.8.29)

第2回 市民への情報提供や啓発のあり方の具体的な検討(R1.11.28)

第3回 医療介護関係者の理解促進・スキル向上の具体的な検討(R2.1.30)

4. 作業部会の内容

案件1 市民への情報提供や啓発のあり方

論点(1) 市や各医療介護関係者がどのような市民啓発を行うべきか

⇒ **資料2-2** ACPに関する市民啓発の全体像(案)

論点(2) 市民啓発媒体 知ってみようverの内容や活用方法がどうあるべきか

⇒ **資料2-3** 市民啓発媒体 ~知ってみようver~ (案)

案件2 医療介護関係者の理解促進・スキル向上のあり方

論点(1) 医療介護関係者の理解促進・スキル向上のために、各実施主体が行うべき取組はなにか。また、その取組を促す方法はなにか。

⇒ 「(仮称)医療介護関係者の理解促進・スキル向上のヒント」

(**資料2-4** 医療介護関係者の理解促進・スキル向上のあり方について
作業部会における主な意見)

ACPに関する市民啓発の全体像(案)

資料2-2

対象(だれに)、実施主体(だれが)、方法(いつ、どこで、どのように)

| 対象 実施 主体・方法 | 市民全体 | 自分ごととして考える時期にある方 | 家族等 |
|-------------------|---|---|--|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ○ ACPの重要性や概念について理解する ○ ACPの流れや支援のイメージを理解しておく | <ul style="list-style-type: none"> ○ ACPの具体的な流れについて理解する ○ 医療介護関係者の支援を受けながら、実際の意思決定を行う | <ul style="list-style-type: none"> ○ ACPの具体的な流れについて理解する ○ 本人による意思決定が基本であること、本人の人生観等を踏まえて本人にとって何が最善かを医療介護関係者と話し合うこと等を理解する |

※ 知ってみようver など

| | | |
|--|--|--|
| 市(地域包括支援センター等) 実施主体・方法(いつ・どこで・どのように) 医療介護関係者 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 相談窓口や人の集まる場所に、<u>広くリーフレット※を設置</u> 庁内医療介護関係部署、商業施設等に ○ <u>市ホームページ等での啓発</u> ○ <u>医療・介護相談時に</u> 庁内関係部署等での医療介護相談対応時に ○ <u>介護予防事業等の既存事業を通して</u> 介護予防事業や保健事業等で ○ <u>出前講座や市民講演会等の企画</u>による市民啓発 市民講演会や啓発イベント等で | <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>市ホームページ等での啓発</u> ○ <u>医療・介護相談時に</u> 庁内関係部署等での医療介護相談対応時に ○ <u>介護予防事業等の既存事業を通して</u> 介護予防事業や保健事業等で ○ <u>出前講座や市民講演会等の企画</u>による市民啓発 市民講演会や啓発イベント等で |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ 相談窓口等に、<u>広くリーフレット※を設置</u> 病院、診療所、薬局、介護保険事業所の各相談窓口 3師会や各職能団体を通じて ○ <u>市民啓発リーフレットの独自作成やホームページ等での啓発</u> 病院、診療所、薬局、介護保険事業所で 3師会や各職能団体で ○ <u>出前講座や市民講演会等の開催</u>による啓発 病院での市民公開講座や出前講座等で 3師会・介護保険事業所等による市民向け講演会の企画 | <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>実際の個別事例に対する情報提供、自分ごとの時期にある方への具体的支援</u> 具体的な情報提供や意思決定支援 医療機関での、入退院、患者相談、診察等で 在宅療養の現場での、診察、訪問看護、介護相談、面談等で ○ <u>市民啓発リーフレットの独自作成やホームページ等での啓発</u> ○ <u>出前講座や市民講演会等の開催</u>による啓発 |

実現にむけたヒント、例について

- ACP啓発プロジェクトチームを立ち上げる
- 訪問看護契約時等に利用者に渡し、啓発を行う
- 独自にリーフレットを作成し、市民啓発を行う
- もしバナゲームを使った出前講座を展開する
- ACP啓発のホームページを立ち上げる
- 医療、介護に関するイベントで、ACPをテーマにする など

1 人生会議 することの **メリット** ってなに？

人生会議って最近、ニュースでも耳にするけど
どんなメリットがあるのかよくわからない・・・



● **将来の医療やケアに、あなたの希望が反映され
やすくなります**

もしもの時、あなたの気持ちを代弁してくれる方にとっても
重要な助けとなります

2 人生会議は、いつから 始めたらいいの？

わたしは元気だし、まだはじめる必要ってないよね
若い人にも必要なのかな？



● **今からはじめましょう**

事故や病気で突然に、あるいは認知症でだんだんと、自分の
気持ちを表しにくくなってしまふこともあります。その前には
はじめましょう

3 人生会議は、**誰と** 話し合うの？

誰と話し合ったらいいのかな？
家族がいない人もいるよね？



● **あなたの希望を理解し、尊重してくれる人と**

それが家族だけでなく、友人であっても構いません
また、医療や介護を受けている人は、家族や医療・介護
関係者と一緒に話し合しましょう

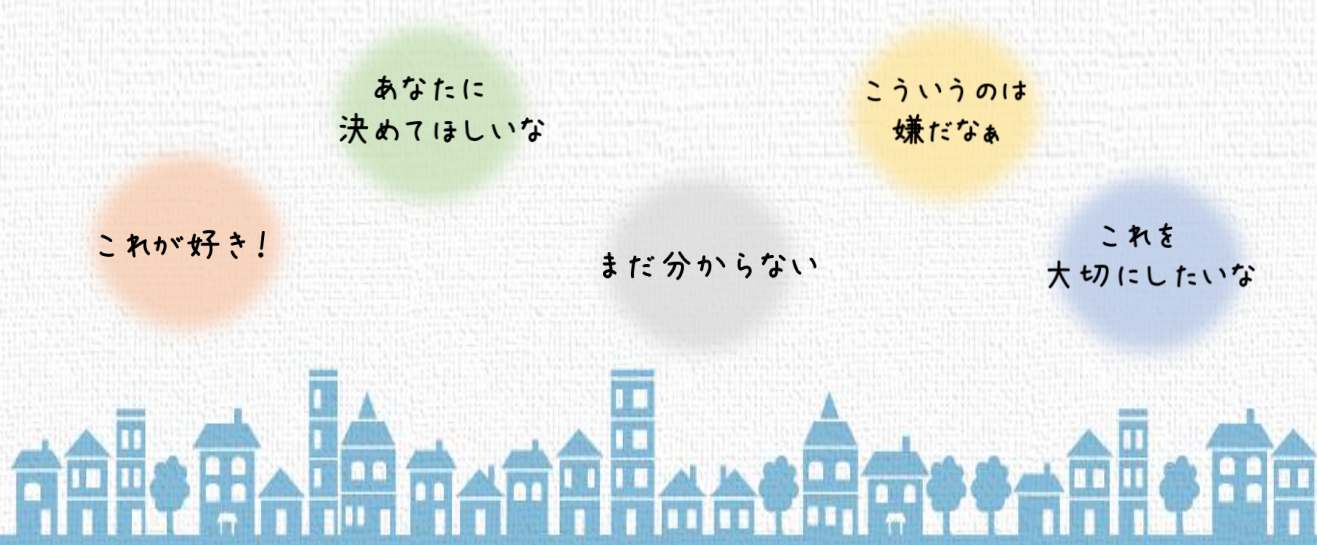
大事なポイント

- 心の中で思っているだけでは、希望は叶わないかもしれません。
周囲に思いを伝えましょう。
- 簡単には決められない大切なことです。結論を出さなくてもいいので
たくさんお話ししましょう。
- 気持ちや思いは、時間とともに変化したり、健康状態によっても変わる
可能性があります。だから、何度も繰り返し考え、話し合しましょう。



大切な人と あなたの 人生会議

あなたにとって、大切なことはなんですか？
もしもの時に備えて、医療・ケアについての希望や思いを
家族や医療・介護関係者と共に話し合っておく、それが人生会議です
希望に沿った医療・ケアを受けながら
最期まであなたらしく豊かに生きるため、一緒に考えてみませんか



人生会議の進め方

以下のSTEP 1～5の流れを、人生会議といいます。

将来、あなたの希望する医療やケアを受けるために、前もってあなたの大切なことや望んでいることを大切な人に伝えておくことが重要です。

大事なポイント

気持ちが変化することもあります。

いつでも、何度でも

くり返しましょう。

ここから
スタート！

STEP 01 あなたの大切にしたいこと

はどんなことを考えましょう

好きなこと、嫌いなこと

人生の目標や大切にしていること

どんな医療・ケアを受けたいか



STEP 05
考え、話し合ったことを

書き留めておきましょう



家族や医療・介護関係者と内容を共有しましょう

STEP 02
あなたの代わりに気持ちを

伝えてくれる人を選びましょう

あなたの希望を理解し、尊重できる人は誰？



伝えていますか
あなたの気持ち

最期まであなたらしく
あるために

ここが大切

STEP 04
あなたの思いについて

信頼できる人や医療・介護関係者と

話し合しましょう

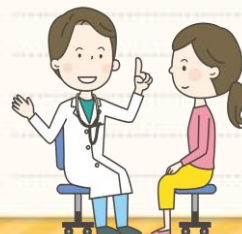


なぜそう思うのか？

その理由も話し合しましょう

STEP 03
かかりつけ医に相談しましょう

あなたの今の健康状態について
理解していますか？



病状や治療について

分からないことを聞きましょう

(病気療養中でない方は省略)

次のページで、人生会議のことを、もっと知ってみましょう

医療介護関係者の理解促進・スキル向上のあり方について

作業部会における主な意見

1. 医療介護関係者の取組の現状について

- 病院で、ACPに関する外部研修を案内しても、医師の参加が少ない。
- 病院医師によっては関心がない方も多く、啓発は難しい。
- 病棟看護師は、ACPが何かを知ることが目標として、一回は研修を受けることとしている。
- 院内で外部講師を招いて、多職種を対象に研修会を実施予定。
- 病院主催の研修の案内をいただく機会は多く、ケアマネジャーもそこで学んでいることが多い。
- 訪問看護事業所では、日々の利用者への関わりを通じて、職場内のスタッフ間で学んだり、人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインの研修を実施。
- ACPに関する研修への参加の必要性を感じるが、時間がとれないのが現状である。

2. 医療介護関係者の取組のあり方について

- ACPの相談員養成研修やE-FIELD（意思決定支援教育プログラム）等の外部研修にスタッフを派遣し、スキルアップを目指すことが必要ではないか。
- eラーニング等を活用し、スタッフへの教育に取り組む。
- 一部病院が先駆的に取り組まれているように、パッケージ化された研修を取り入れ、展開することも一つではないか
- どの職種でも、一度は自分ごととして考える機会を持つことが大切。医療介護関係者自身が、もしバナゲームを使った研修を受けることも一つか。
- 医師とその他の医療介護関係者とでは、ACPに取り組むタイミング等の考え方に少し違いがあるのではないか。そのため、多職種で学ぶ研修会（多職種連携研修会等）が必要ではないか。
- 医療提供者の養成段階（医学生や看護学生等）から、共同でACPについて学ぶ機会があればいいのではないか。
- 退院前カンファレンスで、本人や家族、在宅スタッフからACPの内容を聞かれると、意識を持ち始めるのではないか。

3. その他

- 救急搬送されてきた患者で、ACPをしておらず、医療方針の決定に苦慮するのは、その患者に対応する急性期病院の医師なので、ACPの必要性を一番感じているのは、急性期病院の医師ではないか。

今後について

ACP に関する市民啓発や情報提供については、行政だけが行うのではなく、医療介護関係者にも、様々な機会をとおして市民啓発を行っていただくことで、市民が多くの機会に ACP の考え方に触れることができ、ひいては ACP を知り意思決定をされる方が増えるなど、市域全体の機運を高めることにもつながります。

また、医療介護関係者の理解促進・スキル向上も、医療介護関係者自身が主体的に取り組んでいく必要があります。

今年度の議論を踏まえ、市民の意思を尊重した ACP を推進していくために、今後、行政がすべき取組の推進と併せて、医療介護関係者にも以下のような働きかけを行います。

1 「ACP に関する市民啓発の全体像」について

「啓発の全体像」を表にまとめ、医療介護関係者へ配布し、それをもとに、各機関や職能団体等による市民啓発を推進いただく。

※資料 1-2 をブラッシュアップ

- ・どのような対象に(だれに)、どの実施主体が(だれが)、どのような方法で(いつ、どこで、どのように)、市民啓発を行うか
- ・実現に向けたヒントや例などを記載

2 市民啓発媒体「知ってみよう ver.」について

本日の意見を踏まえ「知ってみよう ver.」を概ね完成させ、来年度、市で印刷し、関係機関に一定枚数配付する予定。配布の際は、活用時の注意点をまとめた紙も添える。

各機関で、相談窓口等への設置や市民啓発の企画時等に活用。

また、このリーフレットの原版の提供を可能とし、各医療介護関係者にて印刷・配布もできるようにする。(内容の変更は不可)。

3 医療介護関係者の理解促進・スキル向上について

作業部会で議論した内容を紙面にまとめ、医療介護関係者自身が主体的に理解促進・スキル向上のための取組を開始・充実していくための材料としていただく。

【記載する主な内容】

理解促進が必要な現状や理解を深めるべきポイント、取組の実現に向けたヒントや例など

4 1～3についての医療介護関係者への働きかけについて

【配付物】

- (1) 「ACPに関する市民啓発の全体像」
- (2) ACP 概要版リーフレット「知ってみよう ver」
- (3) 知ってみよう ver 活用時の注意点
- (4) 「(仮称)医療介護関係者の理解促進・スキル向上のヒント」

【配付先】

吹田市医師会・吹田市歯科医師会・吹田市薬剤師会
市内病院
吹田市介護保険事業者連絡会

【配付時期】

令和2年夏ごろ予定